

一宮市を取り巻く社会潮流

これからの10年、更にその先の将来を考えてみましょう。

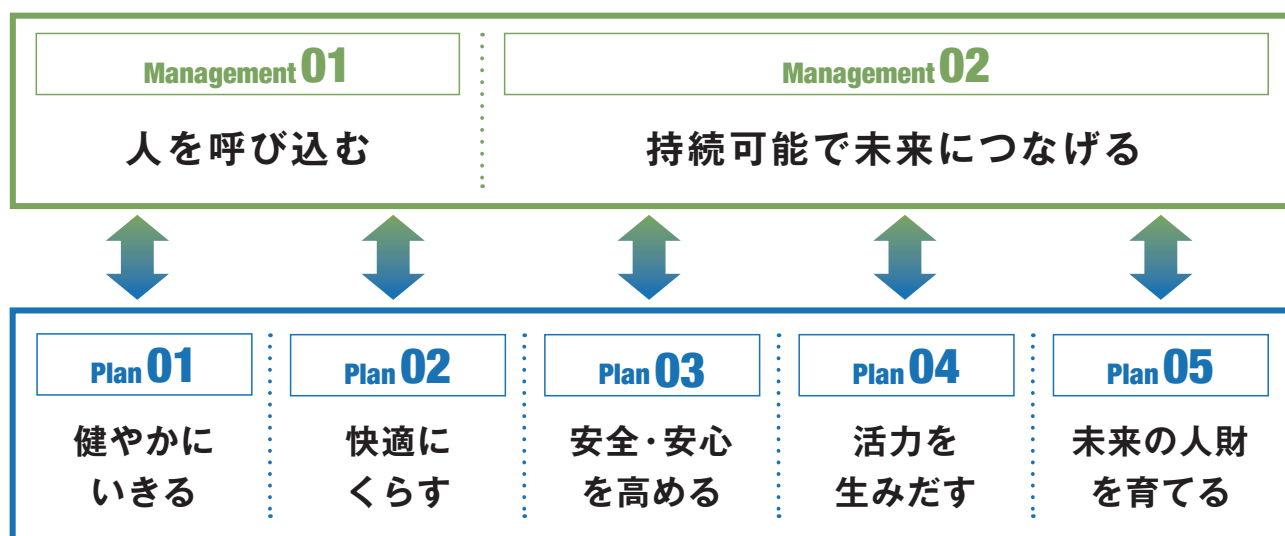
本格的な人口減少を目前とした今現在、市内の状況変化だけではなく、本市を取り巻く将来への見通しは非常に難しくなっています。都市将来像の実現に向け長期的な展望に立ったとき、何が見えてくるのでしょうか。一宮市に影響を及ぼす事項として、少子・超高齢社会、高度情報化、リニアインパクトをはじめ、さまざまな要因を考慮し、第7次一宮市総合計画を策定しました。



5つのプランと2つのマネジメント

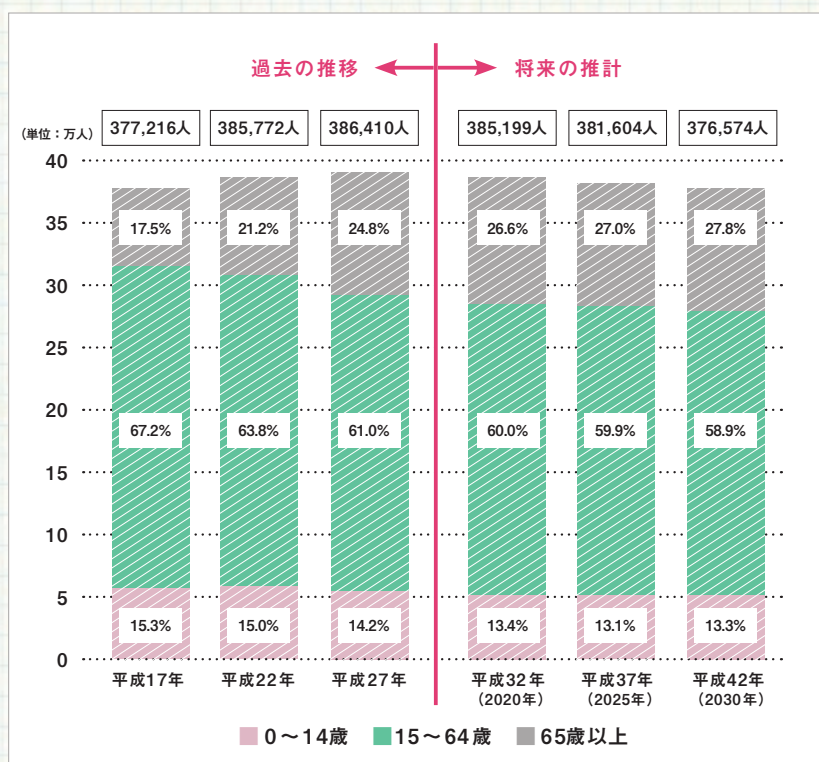
都市将来像の実現に向けて、一宮市が『今から、できること』『今から、やっておくべきこと』を、「5つのプラン」と「28の施策」として定めます。

また、「5つのプラン」に掲げる施策を着実に進めるためには、将来にわたり安定的な市政運営をしていかなければなりません。そのためには、行財政基盤の強化はもちろん、市民と行政がそれぞれの立場で力を発揮し連携することなども必要となってきます。「5つのプラン」を実行していく上での共通基盤として、「2つのマネジメント」と「7つの施策」を定めます。



✓ 人口の見通し

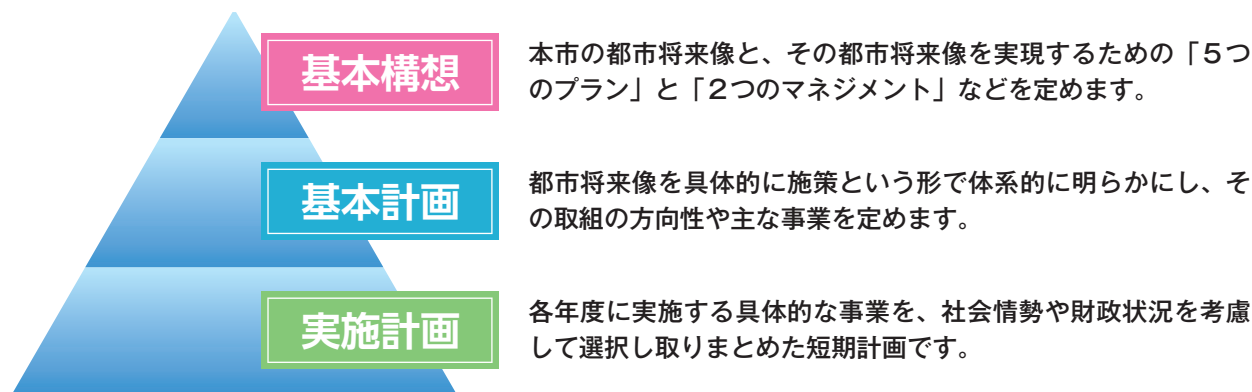
本市では、平成24年7月に最も多い386,722人に達して以降、緩やかな人口減少局面に入っています。年少人口(0～14歳)は実数・構成比とも微減の後、上昇に転じると見込まれます。生産年齢人口(15～64歳)は、実数・構成比とも一貫して低下していきます。老年人口(65歳以上)は、今後も実数・構成比ともに増加し続けると見込まれます。



基本フレーム

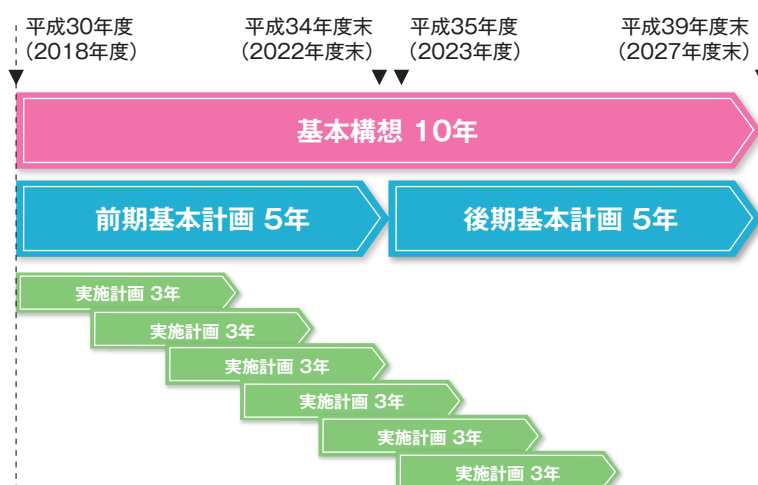
計画の構成

この計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つで構成します。



計画の期間

基本構想および基本計画の期間は、平成30年度（2018年度）から39年度（2027年度）までの10年間とします。ただし、基本計画は中間年に必要な見直しを行います。実施計画の期間は3年間とします。



計画の推進

計画の推進にあたり、施策の進捗状況を把握・評価し、PDCAサイクルを徹底します。

客観的な数値により定量的に把握する「客観指標」とその目標値を設定し、また、市民の体感からなる「主観指標」とも組み合わせながら、その推移を把握することで、進捗状況を確認していきます。

